



育兒叢談 (四)

第七 疾病と年齢との關係

時事新聞が婦人夏季講座に連載した醫學博士川上漸氏の講話であります。直接育兒のみに關係してゐるのではありませんが母としても保母としても心得た方がよいことが多いから轉載いたします。

年齢と疾病と云ふものは、非常に深い關係を以て居るものであります、どなたも御承知のやうに大人になつてから麻疹になると云ふ者は極稀であります、又其反對に子供が胃癌に罹ると言ふ事は絶無であります、是は極端な例でありますが、兎も角、この年齢と疾病と云ふものは、極めて深い關係を以て居て其の關係の色々複雑した姿で吾々の眼に映て來るものであります、有様は複雑でありますが、併し其の關係を支配して居るものは極

簡單であります、それは一つは境遇の差異、言ひ換へれば曝露の状態、即ち人間の社會に曝されて居る状態に依つて支配される。一つは遺傳の關係であります。此の遺傳の關係に依つて又色々支配せらるゝものであります、各の例を擧げて見ると麻疹の事は前に申上げた通りでありますが、此の麻疹でも金持の子供は小學校に入るやうになつてから初めて罹る、其の反對即ち金持たずであります、此の金持たずの子供は、五歳に達せぬ内に

麻疹に罹る事が多いのであります、是は金持の子供と金持たずの子供との體質が違ふと云ふよりも曝露の状態が違ふからであります、申す迄もない事でありますが、吾々金持たずの子供と云ふものは、三歳位の頃から既に社會的位置に置かるゝのであります、金持の子供は小學校に通ふ頃或は幼稚園に通ふ頃になつて初めて「社會的」の地位に置かるゝからであります、即ち乳母、子守其他が守り立て、綺麗なお座敷からお座敷へ移り、別

差異が現はるゝのでなくして、曝露の状態が違ふからであります、多くの女の人は嫁に行く前に、一稼ぎしやうと云ふので十五歳頃から會社に出て働くのであります、それで二十歳を過ればそれぞれ良縁を求めて、社會の表面から隠れるのであります、それから男は兵隊検査が済むと、自分の身體の位置が定まるから、偕て之から一稼ぎやらうかと云ふので稼ぎ出す、是は曝露の状態の違ふ一例であります。

壽命や疾病が女は女親に

男は男親に似る不思議

持たずの子供とが、麻疹に罹るのに年齢の相違があると云ふ事はその曝露の状態が違ふからであります、又肺結核であります、是は女にあつては十五歳から二十歳前後迄に罹る者が最も多く、男にあつては二十歳から二十五歳迄の間に罹る者が最も多いのであります、是は男と女とは無論體質も違ふが、その體質の相違に依つて、これだけの

それから遺傳の關係の例を挙げれば一番簡単な事から申しますと男でも女でも五十近くになると自分の死ぬる時期の心配を始める「私はもう長い事はなからうと思ひます」と斯う言ひ出す、何故かと其の理由を訊くと「親の死んだ歳が近づいたから長いことはなからうと思ひます」と斯う言ふ

試みに親とは何を意味するやさう云ふ眞面目な質問を發する事は出來ぬが「貴下の親とはどちらであるか」と云ふ事を尋ねると、女は女の親を言ひ男は自分の父親の事を申して居ります、男が五十位になると「親爺が五十二で死んだからも二年位のものだらう」と斯う言つて居る、又女の方は「私の母親は六十歳で死んだから、私も五十八だからもう二年もしたら死ぬだらう」等と言つて居る、又多くの場合に、男女は其の通り親の死年に死ぬのであります、此の不思議な現象は何うして現はるかかと云ふと、父親が色々曝露の状態に依つて或る病氣を得ると、其病は其の年齢と一定の約束があつて、現はれて來るのであつて、其年齢に對して好みがあつて、同じやうな病に罹るのは何故なりやと云へば、是は病が年齢の外に更に性に好むからで、母親のかゝつた病は、其の母親の年齢と、性を好むからで、男親に起る場合も同じ事であり、併し茲に一つ不思議な事實は、男女共青春期の前に罹つた病、詰り物の衰れを覺へる前に罹つた病は、この男女の性の關係を有せず、子供に遺傳するが、春期發動期を過ぎてから罹つた病は、自分と同性の子供にのみ傳はるものであります、是は理屈を考へると興味がありますが、詰り物の衰れを感ずる年頃迄は、女でも男でもない、と云ふやうな譯からして、其の病は性と云ふ事に就いて好みながら、何方でも遺傳するが、春期發動期を過ぎてから起つた病は年齢の外に性と云ふ好みがあるから、同性の者にのみ病が傳はるのであります、斯う云ふやうな關係が絡み合つて、年齢と疾病との關係をして愈々複雑ならしむるのであります、但し是は年齢と疾病との關係の一つの方面であつて、他の方面から觀察するとも少し恐ろしい事がある、其の恐ろしき方面とは何であるかと云ふと文明の影響である。

偕て文明と云ふものは有難いもので、吾々は其の惠澤に均霑して今日愉快に日月を送迎して居るのでありますが、併し一面から観ると恐ろしいものである、それは文明の目的とする所は、多くの人と樂しみを共にすると云ふ事が其の一つであります、其の結果として、野蠻未開の時代に於ては、身體の虚弱にして勇氣の乏しい者は競争に依つて食物を得る事は出来なかつたのでありますが文明の時代に於ては、身體は薄弱で、勇氣に乏しい人であつても、なほ食物を得る事が出来る、それから、も一つは野蠻未開の時代に於ては、虚弱にして勇氣に乏しい者は、配遇者を得る事が出来なかつたのであります、従つて此の世に自分の子孫を残す事が出来なかつたのであります、文明の今日に於ては、此の虚弱にして勇氣に乏しい者にあつても、尚ほ配偶者を得る事が出来る、随つて此の世に子孫を残すべき機會が與へられるのであります、之が爲めに、曾ては虚弱の體質と云ふものは、後の子孫に遺傳されなかつたのであります、文明の今日に於ては、虚弱の體質や、勇氣に乏しい性質が其の儘子孫に遺傳されるのであります、此に於て、吾々の社會に不思議な人間が殖えて行くのである、不思議な人間と云へば、言葉が悪いかも知れませんが、吾々病理學を研究する者は、之を「連れて行く人間」と云つて居りますが、詰り社會に一日一日働いて行く時に引つ張つて扶けつゝ進まねばならぬ、人間の數が殖えて來るのであります、斯う云ふ人は病に罹り易く、さうして罹つた病は子孫に遺傳する、此に於て年齢との關係は愈々複雑になつて來るのであります、併し私は此處で年齢と疾病との關係を一々年を追ふて病理學上から、専門的にお話する事は非常に面倒であつて、而も何等の効果も無い事だと思ひますので、今迄私は年齢と疾病との關係の大綱を

申上げましたが、是から先は、極端の場合を申上げやうと思ひます、それは人間は何故早死するか何故天壽を完うする事が出来ないか、即ち何故天から授かつた所の年齢に達せずして死ぬるのであらうか、其の天壽を全うする事の出来ない原因たる疾病は、抑も如何なるものであるかと云ふ事を申した方が都合が宜いと思ひます、今日迄人間の壽命は或は六十だと稱せられ、或は七十は稀だと稱せられ、普通は五十であらうと云ふやうな事を言つて居り、人生七十古來稀なり、七十迄も生きれば喜ばしいと言つて居る。

天壽を妨げる老衰といふ現象

コレステリン沈着のため

併し色々歴史を調べ尙ほ古代人種を蒐めて調べて見ると、天壽と云ふものは百二十乃至百五十歳であるらしいのであります、さうして、其の天壽を全うしたる死と云ふものは、極めて安樂

であるらしい、即ち無慾にして安樂で、恰も木の葉が枯れて散るが如く、或は夏だけに生きて居る所の動物が、何等の不安なく、何等の慾望もなく死んで行くが如き状態であるらしい、天壽を全うせぬ死と云ふものは、凡て苦しいものであつて又若い者の臨終の有様程苦しさうに見え、悲惨なものであります、此の天壽を全うせずして死ぬる状態から、人類を救ひ出すと云ふ事が、吾々醫學に携はる者の最終目的であります、此の天壽を全うする事を妨げるものは何であるかと云へば、老衰と云ふ状態である、老衰とは抑も如何なる事であるかと云へば、是は極めて複雑のものであります、先づ皮膚に皺が寄つて来る、眼の角膜に白い曇りが出来て来る、是は上と下とから始まつて終には輪になるのであります、それから角膜の奥にあるレンズに濁りが出来て来る、老人になつて眼の清らかさを減ずるのは之が爲めであります、

それから肺氣腫と云ふものが起つて来る、よく爺さんや婆さんは朝起きてから、非常に苦しさをゴホンゴホンと咳嗽を續ける様にするものであります。まして「私は痰性であります」等と言つて遠慮なく痰唾を吐き廻し、咳嗽拂ひをして居る者がありますが、之が肺氣腫である、それから動脈硬化症と云ふものが起つて来る、詰り動脈が硬くなるのであつて、醫者が脈を執つて見ると、恰度針金のやうな感じがする位迄硬くなるのであります、それから額の兩側に螺旋のやうな形をした血管が見えるやうになつて来る、是が動脈硬化症であります、是等の變化は一々別のものゝやうに見えるが實は一つの變化である、一つの病的變化が色々な姿となつて、吾々の眼に映るのであります、何故さう云ふ變化が共通であるかと云ふと、是は「コレステリン」と云ふ妙なものが、身體の組織の内に沈着して、其の量が増すに従つて、動脈纖維が切

れて行くと云ふ一つの變化が色々な所に現はれるから、別々のやうに見えるのであります、凡て皮膚に皴が寄つて居るのは「コレステリン」が澤山沈着して皮膚に緊張味を興ふる所の動脈纖維が追々切れて行くからであります、それから肺氣腫の起る所以は肺臟の組織の中に「コレステリン」が沈着して、其の量が増すに従つて動脈纖維が切れるからであつて、凡て一つの變化であるが、同一種の變化が、その現はるゝ所に依つて色々な姿を示すに過ぎないのであります、此の時血液を採つて調べて見ると血の中に多量の「コレステリン」が含まれて居て色々なところに行つて付くのであります。

それならば此の「コレステリン」と云ふ厄介なもの、吾々の身體の中に現はれて來なくとも宜さうなものであると思はれますが、實はさうでないのであります、其の證據には、吾々の生れ出

づる前、即ち人類として最も若い胎兒の血液の中には、多量にこの「コレステリン」が含まれて居る、即ち「コレステリン」がなければ、吾々は胎兒の状態から一人前の人間になれなかつたのであります、この「コレステリン」は何う云ふ働きをするかと云ふと、細胞の分裂増殖を助けるもので、吾々はこの「コレステリン」のあることに依つて生息して來たものであります、老年になつて、老衰状態を呈するのは體內に澤山ある、この「コレステリン」を充分に消費することが出來ないからであります、故に胎兒の時代や、子供の時代から老衰に至るまでの血液を計つて見ると、壯年の時代に於ては、血液の「コレステリン」は非常に少いが、高齢になるに従つてふえて來ます、それで吾々は動物實驗によつて、人工的に老衰の状態を起すことが出來ます、例へば色々な動物の腦髓とか鶏の卵の中には「コレステリン」が非常

に多いものですが、此「コレステリン」を動物には食はせますと、ある動物にあつては容易に老衰の状態を現はして來る、例へば兎の子一日に雞卵三つ位づゝ食はせますと、二ヶ月位を経て彼等がまだ成熟期に達せぬ前に、既に老衰状態が現はれ角膜は濁り、動脈硬化症が起り、内臓の動脈纖維の弾力が減つて、明かに老衰の状態を起し家るのであります、こゝで後に述べる事柄の爲めに一言挟んで置く必要がある事は、此の兎に於ては人工的に老衰状態を起す事が割合に樂ですが、他の雜食動物及肉食動物にあつては之が困難である事です、例へば犬は本來は肉食獸であつたと云ひますが、今日吾々の家に養はれて居る犬は雜食獸であります、此の犬に老衰状態を人工的に起す爲めに例へ一日に雞卵五十箇位を喰はせねば起つて來ない、即ち雜食動物や、肉食動物は人工的に老衰状態を起すことが困難である。

内外に働く内分泌腺の秘密

四〇

一體吾々の身體の中には腺と云ふものがある、是は肉の中にある所の泉でありまして、この腺は血液の中から材料を取入れ、細胞の働に依つて血液とは全く異なる物を造り出して、之を材料を取り入れた方向と、別の方向に出す働をもつて居るものであります、例へば吾々が汗をかき、或は唾を出す、それから尙ほ見えない所でもあります、腎臓の働きに依つて血液を材料として、小便を造る、それから矢張りこの血液を材料として、肝臓が胆汁を造りますが、是等は凡て腺の働である、仍で腺と云ふものは一般に云へば造り出した物を、身體の外に送り出すものである、こゝに身體の外と云ふのは、吾々醫學を攻究する者から言ふと、胃の内部表面も、又腸の表面も、吾々は之を體表と云ふのであります、何故なれば、吾々の身體を極く簡單に考へると、上に一つ口があつて、下の方に一つ口がある一つの筒のやうなもので、外に色んなものが附いて居りますが、それは身體を貫いたものではないのであります、此の管の内面も之を體表と云ふのであつて、腺はその造り出す働きをするものです、併しこの造つた物を體表に送り出さぬ特別の腺がある、之を吾々は内分泌腺と云ひますが、その造つた物を血液、若くは淋巴腺の中に送り出すと云ふ構造をもつた、或はさう云ふ働きもつた腺があるのであります、この内分泌腺の容易く判るものは、甲状腺と云つて咽喉の所にある腺、それから副腎と云つて腎臓の上に烏帽子の様になつて載つて居る腺なぞで、又腺には内外二つの働きを以て居るものもあります、例へば胃の腑の下に潜んで居る所の腎臓、婦人の骨盤の中にある卵巢、それから男子の睪丸等で、是等は何れも内外二つの働きをもつて居る所の腺であります、そしてこの内分泌腺は、互に深い密接の

關係をもつて居つて、相互に働きを妨げ合ひ、或は助け合つて居る腺でありまして、之に依つて全身の新陳代謝を調節して居るのであります。

その調節の状態を人工的に壞して見ると、其働きの明かに見えて來る事が屢々あるものであります例へば吾々は生殖の時期に達する前には、胸に胸腺と云ふものがあるのですが、此の胸腺は生殖の働きを妨げて居るものでありまして、男子にあつては睪丸の働きを妨げて居り、女子にあつては卵巢の働きを妨げて居るものであります。仍で動物に就て見ますと、彼等のまだ生殖期に達せぬ前に手術に依つて胸腺を早く取つてしまふと、さうすると鶏にありましては、まだ若い中に鶏冠が生え、時を告げるやうになつて來て、物の衰れを覺ゆる傾きがある、それから又支那に昔宦官と云ふものがあつた相ですが、是は幼少の時代に睪丸を全部取去るか、或は其の出口を塞いでしまふ、さ

うすると何時迄たつても物の衰れを感せずして過さすので、是は睪丸の働かないからでありますそれから胸腺が二十歳を過ぎてても尙ほ残つて居る人があるが、さう云ふ人を解剖して見ると、生殖腺が幼稚の状態にある、世間によくかつぶくの良い女の人で、而も石女の人があります、さう云ふ人を見ると、明かに胸腺が残つて居るのであります、斯う云ふやうな譯で、内分泌腺と云ふものは互に深い關係を保つて、さうして全身の新陳代謝を調節して居るものであります、仍で話は本道に戻りますが、老衰の状態は、先づ血液の中に「コレステリン」が多量に現はれて來るやうになると睪丸組織が變化し、其の働きの衰へて來るのであります、又婦人にありましてはその卵巢の組織に變化が起つて感能の衰へたる状態が見えて來るのであります。(未完)